

スパイリエン州草の根獣医および家畜飼育普及員養成プロジェクト 事業評価用 PDM

事業実施機関： 国際ボランティアセンター山形		事業実施期間： 2002年7月～2003年6月		ターゲットグループ： 家畜飼育技術普及ボランティア、草の根獣医			
プロジェクトの要約		指標		指標データ入手手段		外部条件	
上位目標 ・ 家畜飼育による収益が安定する。		1. 家畜の死亡率が減少する。 2. 家畜の疾患率が減少する。 3. 家畜の飼育期間が短縮される。		・ 住民への聞き取り調査 ・ IVYによる視察調査・報告		・ 家畜の産肉市場に大きな価格変動がない	
プロジェクト目標 ・ 地域での家畜飼育のための環境が整備される。		1. 家畜飼育技術ボランティアが家畜飼育に関する基礎知識、技術に関する普及活動を実践する。 2. 獣医によるサービスの質が向上する。		・ 住民への聞き取り調査 ・ IVYによる視察調査・報告		・ 投与したワクチン以外の家畜の伝染病が蔓延しない	
成果 1. 家畜飼育技術普及ボランティアが家畜飼育に関する基礎知識を習得する。 2. 活動地域の草の根獣医の技術が向上する。 3. 地域のモデルとなる養豚、養鶏の飼育技術が確立される。 4. 家畜飼育技術ボランティアと草の根獣医の協力によって、活動地域で適切な治療やワクチン接種が実施される。		1-1. 家畜飼育技術普及ボランティアがトレーニング終了後の確認テストで8割以上正解する。 1-2. 家畜飼育技術普及ボランティアが各家庭においてトレーニングで習得した技術を実践する。 2-1. 村の獣医による誤診や医療ミスなどの頻度が減少する。 2-2. 村の獣医による家畜へのワクチン投与が有効に行われる。 3-1. モデル家畜の飼育技術、飼育結果が分析され、慣行飼育方法の問題点、改善点が指摘される。 4-1. 家畜飼育技術ボランティアと村の獣医のコミュニケーションが日常的に行われる。 4-2. 家畜飼育ボランティアを通して、草の根獣医と住民の情報交換が行われる。		・ IVY 家畜専門スタッフによる視察調査、技能調査 ・ 技能確認テストの結果 ・ IVY 家畜専門スタッフによるトレーニング報告及び活動報告 ・ 住民、獣医、ボランティアに対する聞き取り調査		・ 家畜飼育技術普及ボランティアが地域に定着する ・ 村の獣医が地域に定着する	
活動内容 1-1. 家畜飼育技術普及ボランティアの選定。 1-2. 家畜飼育技術普及ボランティアへのトレーニングの実施。 1-3. 家畜飼育技術ボランティアへのフォローアップの実施。 2-1. 村の獣医へのトレーニングの実施。 2-2. 村の獣医へのフォローアップの実施。 3-1. モデル豚舎、鶏舎の建設。 3-2. モデル家畜の飼育、管理の実施。 4-1. 家畜飼育技術普及ボランティアおよび村の獣医による定例会議の開催。		投入 人材 <カンボジア> プロジェクトコーディネーター (日) 1名 農業ディレクター (日) 1名 家畜指導アシスタント (カ) 1名 業務補助員兼運転手 (カ) 1名 家畜専門指導員 (カ) 1名 [パートタイム] <国内> プロジェクトマネージャー 1名 畜産専門家 (短期派遣) 1名		視察研修 州外視察研修旅行 - 住民 18名、IVY職員 5名 資機材 事務用品等 車両 オートバイ 3台 予算規模 約600万円		・ 州政府の協力が得られる ・ 村の獣医の協力が得られる ・ 家畜技術普及ボランティアの人材がいる	
						前提条件 ・ 女性組合がプロジェクトに反対しない ・ 村人がプロジェクトに反対しない ・ 州政府がプロジェクトに反対しない	